



とらいあんぐる



2022 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

「運命の曲」

少し前のことですが、マスコミの取材を受けたことがありました。おとなの生徒さんがチャレンジし、そのチャレンジする姿に密着してレポートする、といった趣旨でした。

シニアの生徒さんにご協力をいただきました。

その方は、お若い頃、ピアノを勉強され、ご結婚やご出産、子育てに忙しい時期、少し中断し、お子さん方が独立した今、またピアノを勉強していらっしゃる方でした。

私は、幸運にも、インタビューに立ち会わせていただくことになりました。

それは、本当に幸せな経験でした。

その方の人生は、大きな節目に音楽があり、まるで人生が音楽に彩られているようでした。うらやましいようなお話です。

その方の個人的な思い出ですので、ここで披露することができず、とても残念なのですが、思い出が印象深い音楽をまとうこともあれば、音楽が縁で大切な人と出会うこともあったそうです。

音楽によって紡がれた人生は、音楽

をきくたびに、その思いを呼び戻されるものです。それが何よりうらやましいと思いました。

まるで、人生という織物に、縦糸のように音楽が織り込まれているようです。長く紡いできた織物を、ふと見返せば、鈍く光る銀糸のように、音楽があるのです。

なんてすてきなんでしょう！

私は、その方ほどにドラマチックな人生を生きてきたわけではありませんが、それでも人生の中に、忘れられない曲がいくつもあります。



それは言葉にするなら、「思い出の曲」といういい方になるのでしょうかけれど、そんなありふれた言葉ではあらわされません。

もっともっと重いものです。曲の断片をきいただけで、電気ショックを受けたかのように、身体の動きが止まる。感情のうず巻きに巻き込まれ、呆然とする。そんな曲です。

「運命の曲」です。

私の「運命の曲」の多くは、子ども時代に自分が弾いた曲です。

それを生徒さんが、「ピアノ・トライ」や発表会で弾いているのをきくと、自分の子ども時代が鮮明によみがえってしまいます。冷静さを保とうとしても、心が勝手に、人生のその日に戻ってしまうのです。

曲をきいているだけなのに、ドキドキするし、そわそわするし、妙に高揚しています。

なんで、こんなに心が騒ぐのだろう？

おそらく、それはその曲にまつわる
たくさんの思い出が折り重なり、たく
さんの感情がつながっているからの
でしょう。

音楽によって、たくさんの思いが、一
気に呼びおこされてしまいます。

ああ、その曲を弾いた時、かたわらに
母がいたのだった。

母が私にピアノを教えてくれていた
時代だ。

途中、私のテンポが乱れると、母はい
つも鉛筆で車いすのひじかけをコツコ
ツとたたき、正しいテンポを示してく
れたっけ。

そのこまかな所作も何もかも、鮮明
に思い出します。

なんてなつかしい！

幸福な時代がよみがえり、胸がいつ
ぱいになります。涙があふれることさ
えあります。

発表会で弾いた曲は、特に母の指導
が多く入り、どれも私の「運命の曲」と
呼んで良いものです。

おとなになってから弾いた曲にも、
運命の曲と呼んで良いものがあります。

おとなになってから弾いた曲は、苦
い思い出をまとうものもあるのですが、
そのほろ苦さも含め、今となっては愛
おいしいばかりです。

どの曲も、豊かな思い出の中に織り
込まれている、大切な大切な曲です。

音楽は偉大です。

1本の糸のように、はかないものな
のに、たくさんの思い出とほとぼしる
感情を、つなぎとめる力があります。



音楽が記憶をつなぎとめ、さらには記憶を引き出す力があることは、心理学の実験でも何度も実証されていることです。

たとえば、何かを暗記しようとしている時、音楽が流れていると、その音楽がかかっている時、思い出しやすいのです。

これは非常によく知られている現象です。

だから「音楽をききながら勉強してはいけない」と、よくいわれます。テストの時、その音楽をかけることができないため、思い出せなくなります。無音の状態で思い出したかったら、無音の状態勉強しなくてはなりません。



娘のキョウコの話にかわります。

キョウコは昨年の秋、大学院の入学試験を受けました。その準備をしているレッスンの中でのことです。

曲の途中で、突然、先生が「あっ！」と、大きな声を出されました。

キョウコの先生は松山先生です。

「この曲！」

松山先生は重大なことを思い出した、という表情です。ですが、なかなか言葉が出てきません。

マスクの奥で、口がパクパクしていることが分かります。

「この曲！」

もう一度、叫びます。

キョウコがその時、弾いていたのは、大学院の入学試験で弾く予定だった、シューマンのファンタジーでした。

「この曲は・・・この曲は・・・私がドイツから帰ってきたばかりの時、一音会の入社試験で弾いた曲だわ！」

その時、松山先生の記憶の扉が開いたのでしょう。

松山先生は、堰を切ったように、しゃべり出します。

なんでこんなに大事なことを、ずっと忘れていたのかしら？

はじめて江口寿子先生にきいていたのが、この曲。そうよ、そうだったのよ！

この曲が縁で、私は一音会に就職できたのだった。

私にとっては、人生を変えた曲だわ。今、キョウちゃんの演奏をきいて、全部、思い出したわ。今！

記憶がどつとあふれ出る瞬間は、私にも経験があります。

松山先生の回想は続きます。

当時、私はドイツから帰ったばかりで、若くて常識がなかった。

長く日本にいなかったこともあり、とにかく無作法だった。

面接試験の日、派手な色のミニスカートををはいて、ネックレスをいっぱい、ジャラジャラつけていった。

しばらくして、日本には「リクルート

スーツ」というものがあることや、入社試験はそれを着ていくものだということを知った。

よく入社できたと思う。今、思い出しても、冷や汗が出る。

普通の会社は、そんな服装の人を採用しないもの。

寿子先生は、あんな私を見て、よく採用してくださいましたね。

よく落とされなかったわ。本当に危なかった！

この松山先生の回想をきいて、私にも思い出すことがありました。

それは、昔、母が一音会の入社試験で面接をおこない、家に帰ってきた時のことです。

帰宅した母の顔が上気していました。

そういう時の母は、いつもおしゃべりです。でも、その時は違っていたので、よく覚えています。

母は、黙り込んでいました。深く考え込み、自分の考えを確認するような、自分の感情を反芻するような、不思議に

静かな落ち着きでした。

発した言葉は、驚くような言葉でした。

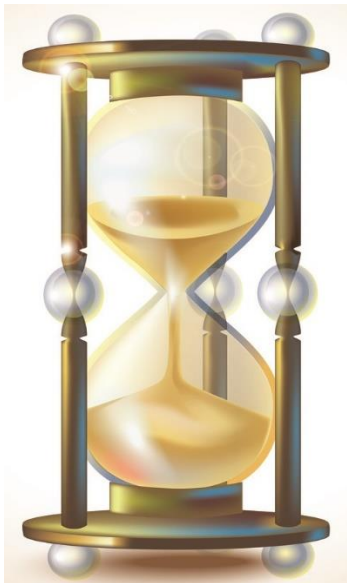
「アヤコ、とうとう出会ったわよ・・・
ずっとずっと探していた人を、今日、見つけたわ・・・」

母は大きく深呼吸をし、静かに宣言します。

「キョウちゃんの先生になる人よ」
それしかいいませんでした。

母はその時、とても安心したのだと思います。

松山先生が一音会の入社試験を受けた日でした。



母にとっても、「運命の瞬間」、「運命の曲」であったことでしょう。

当時、キョウコはまだ3歳くらいでした。

今年、そのキョウコが、22歳です。

長い長い年月が経ちました。

母が旅立ってから数えて、今年は、ちょうど10年です。

今年の母の命日、キョウコは、大学の卒業試験の日を迎えていました。

1週間ほどある試験期間の中で、大学側が学生を割り振って、試験日を決めます。

キョウコの試験日は、何のめぐりあわせでしょうか、よりによって10年目にあたる、母の命日です。

母が亡くなった10年前、当時、小学校6年生だったキョウコは、音楽大学付属中学校の入学試験を数日後に控えていました。音楽の道の、まさに入口に立とうとしていたところでした。

そして今年、とうとう音楽大学を卒業しました。

卒業試験で弾いたのは、もちろん「運命の曲」シューマンのファンタジーです。また音楽という1本の糸でつながりました。

卒業試験の日、母の魂は会場にいて、キョウコの演奏をきいていたことでしょう。

母はどんな思いで、この「運命の曲」をきいていたのでしょうか。

「やっぱりこの曲なのね・・・」と、満足そうに微笑んでいたような気がします。

そして、松山先生と出会った運命の日のことを、なつかしく思い返していたように思います。

新年度がスタートする今、人生がはじめたばかりの生徒さんに、願うことがあります。

「運命の曲」を増やしてください。

年齢を重ねると分かるのです。

人生という織物に、金糸、銀糸のように音楽が織り込まれる、こんなに美しく、こんなに心がなぐさめられる、こん

なにすてきなことはありません。

今年度もたくさんの曲に出会うことでしょう。

その中に、「運命の曲」があるかもしれません。

もう、発表会の曲決めの作業に入っている生徒さんも多いはずです。

もしかしたら、その曲が、あなたの「運命の曲」です。

涙を流し、汗を流し、「運命の曲」は、あなたの人生を貫く一本の糸となるでしょう。

(江口 彩子)



◆新年度のレッスンはスタートしました

新年度がスタートしました。そして、コロナ3周目です。

一昨年は、新型コロナのせいで、4月を休校としました。大混乱の1年でした。昨年は、無事にスタートを切ることができたものの、何度もコロナの波におそわれ、不安定な1年でした。今年度こそ、安定した、平和な1年となりますよう、心から願います。

皆さまに新年度希望表をご提出いただき、作成いたしました新時間割が、動きだしています。新時間割作成の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきました。お忙しい中、丁寧にご対応くださいました皆さまのご協力に深く感謝しています。

今年度は、土曜日、日曜日のご希望が非常に多くなり、ご希望通りにお組みできないケースも出てしまいました。本当に申し訳ございません。お待ち時間が出てしまったケース、毎週をご希望なのに隔週にさせていただいてしまったケース、第一希望のお時間と違ってしまったケース、いろいろあるかと思いますが、時間割に空きが出た時点で、またご案内させていただきますので、どうかご容赦ください。

また、新年度がスタートして、生活のタイムスケジュールが思っていた形と違い、お困りの方もいらっしゃるかもしれません。レッスン曜日・時間等の変更は、なるべく早く、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってしまいますので、その点はどうかご了承ください。

今年度も、生徒さんが大きく成長できる1年になりますよう、スタッフ一同、全力を尽くします。今年度もどうかよろしく願いいたします。



◆今年度のイベント

この「とらいあんぐる」と同時に、年間スケジュールをお配りしています。

なお、教室のホームページには、在会生徒さん用のページがあり、随時、生徒さんあての情報を載せています。以下のQRコードをご利用ください。



年間スケジュールは、そこにアップしていますので、出先で「来週は何週目?」、「次の土曜日は奇数週だけ?」、「いつから夏休み?」等と思われた場合に、ご利用いただけると思います。

2年間、コロナに翻弄されてきたイベント関係ですが、今年度は密を避けつつ、すべてを対面式でおこなう予定です。

最大の行事である「ピアノ発表会」は、8月5日(金)・6日(土)・7日(日)・8日(月)の4日間です。場所は「成増アクトホール」(東武東上線「成増」駅前)です。「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。4日間、開催していますので、ご都合の良い日を決め、ご予約をあけておいてください。人前で演奏する経験は、ピアノのお勉強には不可欠です。ご協力をよろしくお願いいたします。

この春、ピアノをおはじめになった生徒さんも、十分、間に合います。毎年、4月に入会した生徒さんも、夏の発表会で活躍してくださっています。

ピアノをおはじめになっていない小さな生徒さんも、リトミック発表でご出演いただきます。そろそろ練習がはじまることと思います。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711(担当・谷口)】。

◆「第16回ジュニア・コンサート」を開催します

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、4月27日（水）「ゆめりあホール」にて開催いたします。開場18：30、開演19：00です。

出演する生徒さんと曲名は、教室内ポスターでお知らせしています。お一人でも多くの方に、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。チケットは、「ショパンはうす受付」で販売しています。入場料は、小学生以上の前売りが1000円（当日1500円）、未就学児の前売りが500円（当日800円）です。

「ゆめりあホール」は約200席ある、広いホールです。密を避けた開催ができますので、どうぞ皆さま、安心してお越しください。もちろん、感染対策も、しっかりおこないます。



←ゆめりあホール

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。